

研究主題

課題を自分事として捉え、互いの考えを認め合いながら解決できる児童の育成
～持続可能な社会づくりの担い手を育てる学習を踏まえた授業を柱に～

1 単元名「わたしたちの地震プロジェクト」

2 単元の目標

地震について様々な分野から探究し、自ら取組や工夫、地域の方との交流や体験的な活動を通して、地震の恐ろしさや防災計画、準備の大切さ、安心安全な生活を守る人々の思いや仕組みを理解し、自分の生き方を振り返るとともに、これからの生活においてどのようなことができるのか考えることができる。

3 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 地震について様々な分野から調べ学習を行い、情報を共有することで地震の恐ろしさや防災計画の重要性を理解している。 ② タブレットを活用したり、地域の人から防災の話を聞いたりすることを、目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③ 地震への防災意識の高まりは地域の人との交流や体験的な活動を通して探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	① 地震の様々な疑問、問題を解決するために、何をするのか、何のためにするのかを自分事として捉え、解決の見通しをもって計画を立てている。 ② 問題を解決するために、友達と協力して必要な情報や手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③ 問題解決に向けて、観点に合わせて情報を協働的に友達と共有したり、整理したりしている。 ④ 体験活動や調査活動で得た情報を分かりやすくまとめると共に自分の地震の恐ろしさや防災の大切さ、重要性を表現している。	① 問題を自分事として捉え、進んで探究し異なる意見や友達の考えを受け入れ尊重すると共に防災への学習意欲を高めている。 ② 多くの人に地震のことを知ってもらうために自他のよさを生かしながら友達と協働的に活動して問題解決に取り組んでいる。 ③ 自己の生き方を振り返りこれからの実社会や実生活で地震の問題に自分はどんなことができるか考えようとしている。

4 本研究を踏まえて

(1) 本単元がもつ教材としての意義

本単元では、総合的な学習の時間の学習指導要領「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を養う」の項目に重点を置き、活動を進めていく。現代の家庭環境や地域の実態を見ると、地域の中で助け合う“共助”の面が薄れている。親の共働きや核家族化、行き届いた行政サービスの普及により、自然災害が起きたとき地域での助け合いが困難になっているのが現状である。特に、子供たちは災害が起きたとき、周りの大人の指示に従うだけの“お客さん”状態になっている。したがって災害が起きている中、周りの指示を仰いでいるだけの状態より、自ら安全な行動ができ、また助け合いの輪に入っていく、家族や地域のために行動できる子供を育てていくことが、求められる。災害が起きたときに、自ら安全な行動ができるような態度や能力を身に付け、家族や地域の安全に向け行動できる防災教育を進めていくことが大切だと考える。自助、共助の重要性を理解した上で、自宅における被害予測や防災状況を確認し、よりよい防災対策について考える。また、これまでの学習を踏まえ、今後予想される大地震に向け、自分自身でできることは何かを話し合う。マニュアルにとらわれた防災訓練や防災教育をするのではなく、児童一人ひとりが自分事として捉え、状況に応じて自分の命は自分で守ることができる自助の意識、状況から自分のできることを考え行動できる共助の意識を育てるといった主体性を育む防災教育ができる教材である。

5年生という学校でも高学年として6年生を見習いながら、委員会やクラブ、縦割り班活動などで学校のリーダーとなって活躍することが多くなっていくこの時期に、自分たちの地域において、このような役割を担い考えることは、発達段階でも非常に有意義な教材であると言える。

一方で、ESD(持続可能な社会づくりの担い手を育てる学習)の観点から「11. 住み続けられるまちづくり」から豊島区がどのような防災設備を整えているかを学び、地域の方や防災課の方との話し合いを通して、区民を守りたいという思いや願いを知ることで、豊島区への郷土愛を高めるとともに、これからの住みよいまちづくりへの関心を抱くことができる。「13. 雄気候変動に具体的な対策を」からでは、地震という災害への理解を深め、それに対しての防災への備えの意識が高まり、命を守るための行動力の向上や防災計画の備えに意欲的になることが期待できる教材になっている。

(2) 本単元を学習する上での児童の実態

児童はこれまでに、4年生の社会科で「神田川氾濫による災害とその避難の仕方」について学習を行っている。また、地震についても自助や共助について簡単に学習した。しかし、授業の様子や振り返りから見ると、どこか他人事として捉えている児童が多く、自分事として捉えていた児童は少なかった。また、避難訓練では話をしてしまったりふざけてしまったりする児童もいる。総合的な学習の時間でも課題を調べて発表することは何度も行ったことがあるが、相手の話を聞いて認めたり、違う視点から課題を見つめたりすることに苦手意識をもっている児童が多い。このような実態から学習指導要領の「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を養う」にも関連させて主体性を伸ばし、協働的に協力する大切さを学ぶ必要がある。また、自分事として課題を捉えることによって、相手の話をよく聞いて共感することやいろいろな視点から物事を見る力を付けさせたい。

事前に行った総合的な学習の時間のアンケートでは、総合的な学習の時間が好きな児童は全体の90%を超えていた。しかしその中で好きな理由を調査したところ、「課題をとらえたり、解決の見通しを立てたりすることができるから」が全体の15%、「地域に関心があるから」が全体の20%、「発表で伝えるのが好きだから」が全体の30%という結果になった。このことから総合的な学習の時間は好きだが、課題設定や伝え合う活動、そして地域への関心が低い児童が多いことが判明した。

ESD(持続可能な社会づくりの担い手を育てる学習)の観点から児童は昨年度、水害や地震などの災害を学んでいるが防災への備えが不十分な家庭が多く、避難経路や避難場所を話し合っていない現状があった。学校の防災設備や防災グッズでの紹介では、興味・関心をもって学んでいたが、緊張感や切実感を抱いて、自分事として考えている児童はあまりいなかった。また、豊島区でどのような防災活動を行っているか、どんな設備が備えられているか、しっかり把握している児童は少なかった。

5 本単元を指導する上でのポイント

以上を踏まえ、次のように指導し、本研究主題を達成する。

〈視点1〉 児童が課題を自分事とするための工夫

どの教科でも、課題に対して集中して取り組める児童があまり多くなく、自分事として捉えて深く考えている児童は更に少ない。特に、地震の防災はこれからの将来役立つ内容なので、自分事として捉え、必要感を抱かせて取り組ませたい。単元のはじめに、世界と比べて日本は地震大国であることや、被害の状況、地震の多さを児童に伝えたり、防災課の方を招いて、大きな災害時にはすぐに救助に行けない現状を知らせたりして、課題解決への必要感や地震に対する切実感を抱かせる。また、地震は学校にいる時にだけ起こるものではなく、どんな時でも、様々な場所で起こる可能性があることを再認識させ、自分の1日を時系列でまとめ1番地震が起きてほしくない場面(早朝・就寝時・一人で過ごしている時等)を想定させて必要な課題を考えさせる。身近な場面から課題を考えていくことは、児童にとっても自分事として捉えやすくなると考える。

〈視点2〉 互いを認め合いながら解決するための手立て

地震を調べていく過程で、友達との話し合いの場を多く設定し、他者を認め合いながら、地震についての様々な意見を受け入れ、命を守るための行動やできることについて自分の考えを広げたり深めたりしていけるようにしていく。話し合い活動や協働的な活動(ペア・グループ・ワールドカフェ等)を多く取り入れ、自分の考えを押しつけるのではなく、様々な意見を聞いて認められる態度を身に付けさせたい。その際、話し合うよさや意見が出し合える友達のよさ、認め合うことの大切さに気付くことができるように、指導を重ねていく。振り返りでも他者からの意見で自分の考えが変容した点や他者の意見を聞いてよかった点などの視点を例示して、認め合いの有用性に気付かせていく。また、本時ではワールドカフェで3回話し合いを行うが、1回目、2回目、3回目と

様々なグルーピングで友達と話し合いをさせ、地震について多角的に考えを広げられるようにした。ワールドカフェも少人数で対話することで、相手の意見を聞きやすく、自分の意見も言いやすくなるメリットがあるため、児童も気持ちにゆとりをもって話し合いができ、相手の意見に自然と耳を傾けられると考える。

6 指導計画(全35時間扱い)

小単元	・学習活動	知	思	態	○評価方法 ◇支援方法
1 地震について様々な分野から探究し問題点を見い出そう。(7)	・気候変動や世界と比べて地震大国であることや被害状況を確認し、防災課の方から大きな災害時の救助の厳しい実態、現状を聞く。(1) ・地震がいつ、どこで起こるか、様々な場所や時間を想定して、生き残るためにどんな行動が必要か考える。(1) ・自分の命を守るために地震について調べたい課題を考え、タブレットや資料、図鑑などを活用して調べる。(1) (地震の歴史・ハザードマップ・避難経路、防災グッズ、避難所など) ・調べたことをクラス全体で共有し、友達と意見や質問し交流し合う。(2)(本時) ・共有したことから、新たに生まれた疑問やもっと知りたいことを整理し、今後の計画を立て、自分が調べる課題を改めて設定する。(2)	① ②	① ②	①	○ノート記録・タブレット(知・技①②) ○振り返り・発言(態度①) ○ワークシート(思・判・表①②) ◇地震の調べたい分野が決まらない場合は、一緒にいくつか提案して考えさせる。 ◇個別に指示を出して、学習内容を確認したり、今は何をするのか伝えたりして遅れないよう支援する。 ◇視点をもたせて質問や感想を伝えることで、目的からそれずに意見交流をさせる。 ◇ノートに自分の考えを書くときは、個別にアドバイスを出して考えを引き出せるよう机間指導する。
2 体験学習や地域の方との交流などを通して、問題点の解決策を調べたり考えたりして、必要な情報を集めよう。(11)	・1学期に設定した課題と計画した内容を振り返り、今後の活動の見通しをもたせる。(1) ・目白消防署の方による出前授業(1) ・防災ベッドや簡易トイレについて知る。(1) ・豊島区総務部防災危機管理課の方による出前授業(1) ・ALSOKのあんしん教室の型による出前授業(1) ・実際に地域を歩き、避難時の危険箇所を調べる。(1) ・実際に東日本大震災を経験した方へインタビューをしに行く。(1) ・オリジナルの防災グッズを作る。(2) ・オリジナルのハザードマップを作る。(2) ・今までの学びで得た必要な情報を整理する。(2)	①	② ③	②	○ノート記録・タブレット(知・技②) ○振り返り・発言 行動観察(態度②) ○ワークシート・防災グッズ ハザードマップ(思・判・表②③) ◇ハザードマップや防災グッズづくりなどは見本を提示してイメージが湧きやすいようにする。 ◇情報を集める活動では、文字数を減らすためにノートに重要なことだけ記録するよう指導する。

3 情報発信を行うために、発表会の計画を立て友達と協力して準備しよう。(7)	・集めた情報や作成したものを確認して整理し、グループごとにまとめ発表の準備をする。(5) ・発表会のリハーサルをする。(2)		④	○ノート記録(知・技②) ○振り返り・発言 行動観察(態度②) ○ワークシート・防災グッズ ハザードマップ・タブレット (思・判・表④) ◇発表会の準備の際は、役割分担を明確にして、主体的な活動を促す。
4 発表会を通してこれまでの学びや体験を発信すると共に、自己の生き方を振り返り、これからできることを考える。(10)	・発表会を行いまとめた情報を校内や地域の人に伝えたり、掲示をしたりする。(4) ・ここまでの学習をもとに自己の成長を振り返る。(2) ・これから実社会や実生活で自分が地震の問題に対してどんなことができるのか考える。(2) ・自分ができる取組や工夫、考えをクラスで共有する。(2)	③		③ ○ノート記録(知・技③) ○振り返り・発言 行動観察(態度③) ◇発表会での内容や流れが分かりやすいように、個別に指示を出し活動しやすくする。

7 小単元指導計画 Ⅰ 地震について様々な分野から探究し問題点を見いだそう。(全7時間扱い)

時	学習活動	知	思	態	○評価(方法) ◇支援方法
1	・気候変動や世界と比べて地震大国であることや被害状況を確認し、防災課の方から大きな災害時の救助の厳しい実態、現状を聞く。	① ②	① ②	①	◇地震の調べたい分野が決まらない場合は、一緒にいくつか提案して考えさせる。 ○(ノート記録・振り返り・発言)
2	・地震がいつ、どこで起こるか、様々な場所、時間を想定して、生き残るためにどんな行動が必要か考える。(1)				◇個別に指示を出して、学習内容を確認したり、今は何をするのか伝えたりして遅れないよう支援する。 ○(ノート記録・振り返り・発言・タブレット)
3	・自分の命を守るために地震について調べたい課題を考え、タブレットや資料、図鑑などを活用して調べる。				◇個別に指示を出して、学習内容を確認したり、今は何をするのか伝えたりして遅れないよう支援する。 ○(ノート記録・振り返り・発言・タブレット)
4	・調べたことをクラス全体で共有し、友達と意見や質問を交流し合う。 本時				◇視点をもちたせて質問や感想を伝えることで、目的からそれずに意見交流をさせる。 ◇視点をもちたせて振り返りを書かせることで、地震に対する考えを深めさせる。 (ノート記録・振り返り・発言・タブレット)
5	・調べたことをクラス全体で共有し、友達と意見や質問を交流し合う。				◇ノートに自分の考えを書くときは、個別にアドバイスをし出して考えを引き出せるよう机間指導する。 ◇視点をもちたせて質問や感想を伝えることで、目的からそれずに意見交流をさせる。 ◇視点をもちたせて振り返りを書かせることで、地震に対する考えを深めさせる。 (ノート記録・振り返り・発言・タブレット)
6	・共有したことから、新たに生まれた疑問やもっと知りたいことを整理し、今後の計画を立て、自分が調べる課題を改めて設定する。				◇個別に指示を出して、学習内容を確認したり、今は何をするのか伝えたりして遅れないよう支援する。 ○(ノート記録・振り返り・発言・タブレット)

7	・共有したことから、新たに生まれた疑問やもっと知りたいことを整理し、今後の計画を立て、自分が調べる課題を改めて設定する。			◇個別に指示を出して、学習内容を確認したり、今は何をするのか伝えたりして遅れないよう支援する。 ◇視点をもたせて振り返りを書かせることで、地震に対する考えを深めさせる。 ○(ノート記録・振り返り・発言・タブレット)
---	--	--	--	---

8 本時のねらい（35時間扱いの4時間目）

- ・友達と地震についての情報を共有することで、地震の恐ろしさや防災計画の重要性を理解することができる。
- ・意見交流しながら、異なる意見や友達の考えを受け入れ、地震についての考えを広げ、防災への学習意欲を高めようとしている。

9 本時の学習過程

経過時間	児童の学習活動 C:予想される児童の反応	・留意点 ○評価【観点】（方法）◇支援方法
2	1 前時までの学習を想起させ、学習の見通しをもつ。	・前時までの振り返りを紹介する。
4	2 伝え合いをする目的について考えせる。	・目的を確認させることで、情報収集の有用性を認識させる。
6	3 本時の課題を知る。	・子供たちの言葉で課題が作れるよう、発問を行う。
	防災に対して自分ができることを広げよう	
8	4 ワールドカフェで友達に質問、感想を伝えることを伝える。	・視点をもたせて質問や感想を伝えることで、目的からそれずに意見交流をさせる。 ①「行動できる内容になっているか」 ②「気になったこと、疑問に思ったこと」 ③「他に思いついたアイデア」
10	5 ワールドカフェを行う。 ・命を守るためにこんな行動もあるんだ。 ・こんな行動もできると思うよ。 ・避難場所が気になったよ。	・3人グループで3回話し合いを設ける。 1回目：同じグループの友達と話し合う。 2回目：違うグループの友達と話し合う。 3回目：自由なグループで友達と話し合う。
35	6 話し合ったことを紹介する。 ・友達から〇〇の意見をもらいました。 ・いろいろなアドバイスをもらいました。 ・新しい疑問ができました。	○友達と意見を共有することで地震の恐ろしさや防災計画の重要性を理解している。 【知識・技能①】（発言・ノート・振り返り） ◇個別に指示を出して、学習内容を確認したり、今は何をするのか伝えたりして遅れないよう支援する。 ○異なる意見や友達の考えを受け入れ尊重すると共に防災への学習意欲を高めている 【態度①】（発言・ノート・振り返り） ・視点をもたせて振り返りを書かせることで、地震に対する考えを深めさせる。 ・振り返りの視点
40	7 本時の学習を振り返り伝え合う。 ・～さんの話を聞いて、考えが変わった。 ・～さんの考えが聞けてとてもよかった。 ・地震への備えは改めて大切だと思った。	①「地震に対しての自分の思いや考え」 ②「自分の考えが前時と変わったこと、深まったこと」 ③「友達からの話を聞くよさや学んだこと」 ◇視点をもたせて振り返りを書かせることで、地震に対する考えを深めさせる。
	8 次時の見通しをもつ。	

